「芸協のちから」華麗に
60周年記念イベント
未来へ、感謝添えコラボ芸術

はなやま

公益社団法人
宮城県芸術協会
（郵便番号　980-0802）
仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-B
電　話　（022）261－7055
ＦＡＸ　（022）214－5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
発行者　吉田利弘

昭和40年1月創刊された「はなやま」の題号は、芸術協会の創設が、昭和39年5月9日に宮城県花山村（現栗原市花山）の湖畔亭で開かれた会合で決まったことにちなんで付けられました。

創立六十周年事業の柱の一つ、記念イベントが10月6日、せんだいメディアテーク1階のオープンスクエアで開かれた。記念式典に続く第2弾。当協会ならではの各部連携の珠玉のコラボレーション芸術で、舞台を華麗に演出。芸協の力量を県民にアピールするとともに、これまでの支援に感謝の思いを伝えた。併せて、9月28日に開幕した第61回宮城県芸術祭を盛り上げる期待も込めた。

記念イベント

ステージ公演型の記念イベントは「アート（芸術）のちから」を主題に据えた2部構成。華道、邦楽（三曲）、茶道、舞踊（日舞・洋舞）、文芸、書道、洋楽、演劇の8部が舞台を彩った。

第1部は「受け継がれるちから」をサブタイトルとし、継承し次の時代に託すちからを理念に設定。和の象徴としての邦楽を軸に①いけばなデモンストレーションと三曲演奏②三曲演奏「茶の湯音頭」③日本舞踊と邦楽演奏―で鮮やかに表現した。

第2部は「響き合うちから」を掲げて、無限にある表現手法を自在に掛け合わせて広範な響き合うちからを印象付ける内容。①「未来の駅」をテーマとする文芸と書道によるコラボレーション作品の朗読と演奏②西洋舞踊（バレエ）とピアノ・ヴァイオリン・フルート演奏―で、和洋の組み合わせにより先々に希望を見出すプログラムを追求した。

芸術の価値を信じて、過去から現在へ、現在から未来へと問い掛ける趣向。宮城県の芸術文化発展をけん引し続ける覚悟を示しつつ、芸術祭をはじめ協会の事業に対する県民の深い理解と協力に謝意を伝える、メッセージ性の強い演出となった。

和と洋、伝統と斬新さが織りなす出色の舞台芸術。無料ということもあり、会場は満席で立ち見が出る盛況だった。

また、茶会が10月13、20日に輪王寺で8流派によりコロナ禍以前に近い形で実施。音楽会が11月9日、日立システムズホール仙台で、長唄演奏会も同月17日、トークネットホール仙台で、また、工芸展は同公募展・杜のみやこ工芸展と併せて同月6～10日、東北福祉大学ギャラリーミニモリで開かれた。

12月3日、トークネットホール仙台で表彰式、明年2月9日、日立システムズホール仙台で音楽コンクール予選（ピアノ、ヴァイオリン）・本選（チェロ）、3月16日（ピアノ）、20日（ヴァイオリン）、29日（声楽）の本選が行われる。

「第61回宮城県芸術祭」が9月28日、せんだいメディアテークでの展示を皮切りに開幕した。おおむねコロナ禍以前の内容で、還暦の歩みのその先、2度目の還暦である大還暦に向けた「再スタート」を飾った。

開会式は従来の形式で実施。佐藤淳一執行理事の司会で、冒頭、芸術祭会長で実行委員長を務める吉田利弘理事長が支援団体等への感謝と節目を越えての再出発への決意を込めて開会のあいさつ。名誉会長の一力雅彦河北新報社代表取締役社長が祝辞を述べた後、共催8団体代表らがテープカットを行った。

大還暦へ、思いも熱く
第61回県芸術祭開幕

芸術祭は、展示系第Ⅰ期（9月28日～10月1日）の写真展・同公募展フォトサミット、絵画展（公募の部）、彫刻展・彫刻公募展で開幕。第Ⅱ期（10月5～8日）の絵画展、第Ⅲ期（10月12～15日）の華道展、書道展と続いた。

9月29日には日立システムズホール仙台で、音楽コンクールガラコンサートがあり、10月3日には宮城県涌谷町方面に文学散歩を実施。15日には文芸年鑑発行、26日に東京エレクトロンホール宮城で文芸祭もあった。

祝創立60周年
第61回芸術祭
刻んだ年月　作品に結実

彫刻展

【彫刻展（9月28日～10月1日）】出展は29点、招待作家の展示も。映像で制作風景を紹介する等の60周年特別企画も実施。写真は最高賞、宮城県芸術祭賞受賞の作品名「宝を育てる」。ユニークさが際立つ。

彫刻公募展

【彫刻公募展（9月28日～10月1日）】出展は10点。定番的な力作の中に斬新な作品もあり、入場者らを楽しませた。写真は最高賞、宮城県芸術協会賞受賞の作品名「吾子」。

絵画展・公募の部

【絵画展・公募の部（9月28日～10月1日）】出展は77点。前年は85点で、わずかに減少した。写真は最高賞、宮城県芸術協会賞受賞の作品名「微睡む午後」。

写真展

【写真展（9月28日～10月1日）】出展は74点。渾身の一枚を紹介するモニター展示、特別企画「中嶋忠一の世界」等も実施。写真は最高賞、宮城県芸術祭賞受賞の作品名「天翔る」。

絵画展（日本画）

【絵画展（10月5～8日）】出展は日本画35点、洋画170点、役員等74点。写真は最高賞、宮城県芸術祭賞受賞（日本画）の作品名「慈雨上がる」。前々回（第59回）に続く受賞。

フォトサミット

【フォトサミット in Sendai 2024（9月28日～10月1日）】「自由」「東北の風土」「創作」「Youth」の4部門で実施。応募総数1024点のうち、入賞・入選108点を展示。写真は大賞受賞の作品名「雪降る夜に」。

絵画展（洋画）

【絵画展（10月5～8日）】写真は最高賞、宮城県芸術祭賞受賞（洋画）の作品名「群れる」。リアルな描写力は圧巻。緻密で繊細なタッチも印象的で、入場者らの目を引き付ける。

応募者数、作品数が増加
Youth部門新設も効果
フォトサミット2024

5回目を迎えた「フォトサミット in Sendai 2024」は、応募者299名、作品数1024点で、前年比で41名、121点増加した。同公募展の定着と新設の「Youth部門」が高校生ら若者の出品を促した。

今回は、自由、東北の風土、創作（旧アート）にyouthを加えた4部門で募集。フォトサミット大賞、公益社団法人宮城県芸術協会賞には、多賀城市と東松島市の男性、河北新報社賞、Youth賞には、仙台市の女性の作品が選ばれた。また、写真甲子園で優勝した白石工業高校の写真部員の応募した作品（Youth部門）が、宮城県教育委員会教育長賞に輝いた。

フォトサミットは、広範な参加に向けて毎年のように募集内容の見直しを実施。一定数の県外応募と今回は若者の応募が増加し、着実な前進を遂げている。

フォトサミット会場

【華道展（10月12～15日）】前・後期計64名が参加。工芸部との連携で毎日、工芸作品に花を生けるデモンストレーションを実施、会場を彩った。チャレンジ席（4席）も設置。

華道展

茶会、完全復活へ 参加8流派に拡大

芸術祭の茶会は10月13、20の両日、仙台市青葉区の輪王寺で開催された。13日は表千家、遠州流茶道、玉川遠州流、石州清水流、20日は裏千家、煎茶道三彩流、江戸千家、大日本茶道学会の計8流派で、参加は昨年より2流派増えた。天候にも恵まれて、想定通りの参加者で盛況。コロナ禍で杜の都大茶会の中止が続く中、地域に茶道部をアピールする貴重な機会となった。全11流派参加の完全復活へ、着実な一歩が記された。

【書道展（10月12～15日）】出展は258点（役員の部66点、会員の部192点）。写真は最高賞、宮城県芸術祭賞受賞の作品名「鈴虫の声」（かな）。揮毫会や60周年特別企画の自書によるカレンダー制作も好評。

書道展

【文芸祭（10月26日）】東京エレクトロンホール宮城会議室で開催。第9回文芸作品公募表彰式と文芸賞受賞者による感懐と朗読の2部構成。応募者数は一般123名、ジュニア393名。2024年版文芸年鑑も発行。500部、1000円【文学散歩（10月3日）】宮城県涌谷町の文学碑を訪ねた。参加20名。

文芸祭

【音楽会（11月9日）】日立システムズホール仙台コンサートホールで開催。「～私のお気に入り～」がテーマで、ショパン、モーツアルト、プッチーニ、ヴェルディらの名曲を披露。晩秋の夕べ、心地よい響きで会場を満たした。

音楽会

【工芸展（11月6～10日）】東北福祉大学ギャラリーミニモリで開催。写真は最高賞、宮城県芸術祭賞受賞の作品名「tubomi」（陶芸）。小品コーナーと創立60周年記念企画「いけばなと工芸の美」も高評価。

工芸展

【第44回音楽コンクールガラコンサート（9月29日）】日立システムズホール仙台コンサートホールで開催。入賞した園児から大学生まで22名が出演。宮城県芸術協会室内管弦楽団等との共演で着実な成長ぶりを見せつけた。

音楽コンクールガラコンサート

【杜のみやこ工芸展（11月6～10日）】東北福祉大学ギャラリーミニモリで開催。写真は最高賞、杜のみやこ工芸展大賞の宮城県芸術協会賞受賞の作品名「創作仙台箪笥『りんご飴』」（漆）。技量とアイデアが結実。

杜のみやこ工芸展

質は上々、応募は減少 第5回杜のみやこ工芸展

河北新報社との連携による第5回杜のみやこ工芸展の応募者は128名、作品数は152点で、ともに前回を下回った。他県の大型公募展と重なったためか、柱の一つ、陶磁の落ち込みが目立った。特別企画等の対応に追われ、会員らが最終盤の応募の呼び掛けに努め切れなかった側面があるかもしれない。

ただ、業者の都合で作品搬出入が変更され、協会事務所経由に改めるなど、諸準備に知恵を尽くした対応は称賛されてよい。

作品のレベルは上々。審査員の評価は漆、染織を中心に総じて高く、見応えのある作品がそろった。地域の伝統工芸、仙台箪笥と白石和紙の作品が入賞したことも特徴的だ。

定着と課題が見えた形の節目の同工芸展。参加を促す手立てを尽くし、一層の質の向上と次回以降の応募状況の好転を図りたい。

杜のみやこ工芸展　会場

協会の未来へ刷新会議発足
実施前提に幅広く検討

芸術協会の未来に向けて、実践可能な改善策を探り出し、具体の行動へと結びつける「持続可能な協会運営のための検討会議（通称・刷新会議）」が9月9日、発足した。

先行きの安定した芸協運営へ、必要かつ実現可能な対応策を話し合い、実践の方向を手繰り寄せるのが狙いだ。人口減少や少子高齢化等の急速な進展により、会員数が減少傾向を速め、近い将来、個性的で多様な活動の展開が難しくなり兼ねない状況で、事業を支える財務基盤の弱体化が進むことも憂慮し、強い危機感を抱いた吉田利弘理事長の意向で、設置が決まった。

刷新会議は、理事長と執行理事5人の常任理事会（執行部役員）メンバーに、理事4人を加えた10人で構成。月1回の常任理事会開催に合わせて会議を招集し、各委員の率直な意見交換を通じて「実施を前提とする」改善策を煮詰めていく。

刷新会議メンバー

【刷新会議（名簿・敬称略）】吉田利弘（理事長）、佐藤淳一、菅原宗初、西村一観、若柳梅京、熊井雅美（以上執行理事）、及川英之、佐藤象雲、篠沢亜月、西恵美子（以上理事）

刷新会議

芸協会議室で開かれた第1回会議に先立ち、吉田理事長が改めて設置の意図と今後の展開をイメージする趣旨を説明。できることにこだわり、聖域を設けずに議論し、まとまった方策については積極果敢に取り組んでいくとの方針の下、「まずは本年度の第61回県芸術祭をつぶさに視察し、運営の改善策を考えてほしい。手始めに会員、賛助会員の確保策等について、率直な意見を伺いたい」と述べ、理解と協力を求めた。

この日は会議の立ち上げが主で、時間も限られるため、テーマは理事長の意向で財務編の「正会員、賛助会員、寄付行為」に関する項目に限定。2004（平成16）年の2481人をピークに減り続け、24年に1700人ぎりぎりの状況にある正会員確保のあり方、退会者を食い止める方策と、100団体・個人で頭打ち状態にある賛助会員の獲得や退会者の発生を回避する方策等について取り上げた。

理事長を座長役に各委員が活発に発言。「認識の共有に向け、規模を拡大した会議を開いてはどうか」「レベルに留意しつつも、若手の勧誘・入会を大胆に進めたい」「小品も認める等、芸術祭を高齢会員にも優しい開催に改める」「賛助会員獲得のための働き掛けが決定的に不足しており、声掛けの推進を図るべきだ」といった意見が出された。

第2回会議は10月28日に開催。第1回の会議を受けて、確認と深化をメインに意見交換。周知徹底を図るため、運営委員を含めた「拡大部長会」を開催する方向が固まった。会員確保策の追求、会員募集チラシの配布、退会者を回避する方策の検討、賛助会員の獲得並びに継続の促進―等がその内容となる。会員特典としてのワークショップの在り方等の継続検討課題についても言及した。

今回、危機感の共有から、できることをできるところから手掛けるための刷新会議を発足。意義を高め、協会の未来を拓く一手とするべく、具体の一歩が記された。小さな一歩を大きな前進とするため、心を一つに精力的に検討を進めるとともに、改革・実践を支える一般会員らの深い理解が必要となる。

このため、会議では協議の成果を会員らに情報提供するコミュニケーションの推進を図ることを申し合わせた。併せて、会員の知恵を広く集め、総参加の体制で取り組むことの重要性についても認識を共有した。

芸文協総会で議案可決
交流事業の実施も確認

東北・北海道芸術文化団体協議会は6月21日、札幌市で令和6年度の総会を開催し、役員を選出した後、5年度事業報告並びに収支決算・監査報告、本年度事業計画（案）並びに収支予算（案）を審議し、全て原案通り可決・承認した。

恒例の交流事業として幹事（会長就任）・北海道の提案に基づいて、こどもアール・ブリット「WEB展覧会」の開催、幹事へのデータの送信を確認。情報交換では、当協会が①文化施設の整備状況と活用の実態②国民文化祭誘致に向けた動向―を提起、現状を報告し合った。吉田利弘理事長（総会時まで会長）と伊藤敏之事務局長代行が出席。

改革の一助にとの思い添え
会員、協会に30万円寄付

当協会の会員が匿名で、このほど協会に30万円を寄付した。仲介した吉田利弘理事長によると、協会が先行きの円滑な運営に向けて、組織・事業の両面から在り方を問い直す「刷新会議」を設置し議論を始めたことを知り、今後の改革の一助にとの意思が示された。

昨年も会員が匿名で、50万円の寄付を申し出ており、相次ぐ多額寄付に吉田理事長は「組織を取り巻く環境は厳しさを増しており、本当にありがたい。思いを受け止め有効に活用させていただく」と、刷新への決意と感謝の思いを語った。

第 61 回宮城県芸術祭受賞者（会員の部）

賞名	部門	作品名	氏名
宮城県芸術祭賞	写真部	天翔る	阿部信義（大崎市）
	彫刻部	宝を育てる	姉歯公也（大崎市）
	絵画部（日本画）	慈雨上がる	荒井静子（仙台市）
	絵画部（洋画）	群れる	鈴木琢也（角田市）
	書道部	鈴虫の声（かな）	岸本清舟（仙台市）
	文芸部	稲の香（俳句）	伊藤一男（仙台市）
	工芸部	tubomi（陶芸）	大沼明子（仙台市）
宮城県知事賞	写真部	月明かりに照らされるオーロラ	佐藤節子（仙台市）
	彫刻部	switch	花渕一明（仙台市）
	絵画部（日本画）	scent	數本冴英佳（仙台市）
	絵画部（洋画）	方舟のゆくえ	畠山明弘（登米市）
	書道部	白楽天詩（漢字）	渡辺無象（仙台市）
	文芸部	葵（詩）	建入登美（仙台市）
	文芸部	若葉の栞（短歌）	斉藤梢（仙台市）
	文芸部	晩霞芹（俳句）	鶴岡行馬（涌谷町）
	文芸部	喜寿の坂（川柳）	深谷隆志（仙台市）
	工芸部	縷縷と。（七宝）	松本幸恵（仙台市）
仙台市長賞	絵画部（日本画）	漆黒のゆりかご	小泉百合子（多賀城市）
	絵画部（洋画）	唯一無二	板橋かおり（仙台市）
	書道部	悠遠（少字）	井上紫玉（名取市）
河北新報社賞	写真部	慈しみ	先崎康人（仙台市）
	彫刻部	男の首	海野健治（仙台市）
	絵画部（日本画）	瑠璃の名残り	山本政彰（仙台市）
	絵画部（洋画）	心ひとつに-そして これから-(Ⅲ)	大竹幸子（仙台市）
	書道部	宮本博志の詩（近代詩文）	芳賀真桜（気仙沼市）
	文芸部	梅茶漬（川柳）	堀之内稔夫（利府町）
	工芸部	夢をつなぐ鳥たち（ガラス）	川村洋子（仙台市）
宮城県教育委員会教育長賞	絵画部（洋画）	God knows	岡崎義恵（仙台市）
	書道部	王維詩一節（篆刻）	栗山克堂（涌谷町）
	工芸部	秋さり衣（染織）	古山文子（塩釜市）
宮城県教育委員会教育長特別賞	絵画部（日本画）	夕陽の中で	髙橋則子（仙台市）
	絵画部（洋画）	まちの記憶Ⅷ	堀英敏（仙台市）
	書道部	悠久の時（墨象）	藤原紅雲（色麻町）
	書道部	曾幾詩（漢字）	山田華鳳（松島町）
	工芸部	トキノワン（陶芸）	千田玲子（仙台市）
仙台市教育委員会教育長賞	絵画部（洋画）	レクイエムの欠片	中村たみ子（石巻市）
	書道部	禮（少字）	畠中成山（石巻市）
宮城県議会議長賞	絵画部（洋画）	バクタプル広場の午後	伊藤敏行（仙台市）
	書道部	直井彩の詩「黄金の瞳」（近代詩文）	大友四峰（岩沼市）
仙台市議会議長賞	絵画部（洋画）	Presence for Ash	大内隆（松島町）
	書道部	宮澤賢治の詩より（近代詩文）	佐々木一峰（大崎市）
公益財団法人宮城県文化振興財団賞	写真部	炎JAZZing	吾妻克美（大河原町）
	絵画部（洋画）	「空に虹を描く」	阿部正彦（気仙沼市）
	書道部	廖燕詩（漢字）	宍戸青園（岩沼市）
	書道部	蘇東坡詩（漢字）	中島桃沙（仙台市）
	書道部	甦りの聖地（近代詩文）	今野榮園（仙台市）
	文芸部	槻の若葉（短歌）	宮城公子（名取市）
	工芸部	しな糸手もじり織八寸帯「継」（染織）	横田美和（仙台市）
公益財団法人仙台市市民文化事業団賞	写真部	冬支度	竹内邦昭（石巻市）
	絵画部（日本画）	おおきなパフェ	板橋千穂（仙台市）
	絵画部（洋画）	秋風	小泉留美子（仙台市）
	書道部	劉廷芝詩（漢字）	舘岡経香（秋田市）
公益財団法人カメイ社会教育振興財団賞	絵画部（日本画）	ひまわり	佐々木智朗（仙台市）
	絵画部（洋画）	新しい自分の世界	大坂祥春（大崎市）
菅野美術館賞	彫刻部	育む	山中ミサ子（仙台市）
門伝勝太郎賞	絵画部（洋画）	光降る日に	齋藤弘子（仙台市）
	書道部	三好達治の詩（近代詩文）	伊勢枝香（仙台市）
	工芸部	途上の切り口（陶芸）	新藤睦子（仙台市）
宮城県芸術祭奨励賞	写真部	彩雲	伊藤克彦（仙台市）
	写真部	ソブカーム村のモン族の子供達	伊藤トオル（仙台市）
	絵画部（洋画）	オアシスタイム	三浦頼子（石巻市）
	絵画部（洋画）	相	高橋真由美（仙台市）
	絵画部（洋画）	古きランプとザクロ	佐々木まさ子（仙台市）
	書道部	心動（少字）	叶きみ子（仙台市）
	書道部	処暑（墨象）	高橋清琳（美里町）
	書道部	劉滄詩（漢字）	菅原紫雲（仙台市）
	書道部	陳與義詩（漢字）	樫村遊雲（仙台市）
	書道部	ウィリアム・ブレイクの詩「無垢の予兆」（近代詩文）	津川えりか（仙台市）
	書道部	坂村真民の詩「二度とない人生だから」（近代詩文）	佐藤無極（名取市）
	文芸部	沙羅の木（短歌）	伊達宮子（仙台市）

第61回宮城県芸術祭　絵画展（公募の部）彫刻公募展　フォトサミット in Sendai 2024　受賞者

部門	賞名	作品名	氏名
絵画展（公募の部）	宮城県芸術協会賞	微睡む午後	松山　凜（仙台市）
	優秀賞	発芽	石井沙英（仙台市）
	優秀賞	人鳥夢想図	黒政真理（仙台市）
	奨励賞	Don't Stop Me Now	阿部貴志（仙台市）
	奨励賞	Model	北田ちよえ（仙台市）
	奨励賞	刻を編むⅡ	菅原美恵（仙台市）
	奨励賞	ユウカイと絶対領域	白倉向日葵（仙台市）
	奨励賞	浄土 ver.1.0	齋藤健一（仙台市）
	奨励賞	平和への祈り	只野京子（仙台市）
	奨励賞	今朝の陽に	箱崎宏子（岩沼市）
	奨励賞	ある日の想い出	齋藤勝志（仙台市）
彫刻公募展	宮城県芸術協会賞	吾子	佐藤さおり（利府町）
	奨励賞	記憶	畠山東洋子（亘理町）
フォトサミット in Sendai 2024	フォトサミット大賞	雪降る夜に	栗崎貴史（多賀城市）
	公益社団法人宮城県芸術協会賞	現役農業女子	高橋達也（東松島市）
	河北新報社賞	迷いの春	八嶋真子（仙台市）
	Youth賞	ジキルとハイド	豊島芽依（仙台市）
	JAL賞	おしくらまんじゅう	浅黄成美（山形県）
	宮城県知事賞	心頭滅却	松田秌恵子（仙台市）
	青森県知事賞	恐山夕暮の頃	氏家幸夫（仙台市）
	岩手県知事賞	ししになる	山下春樹（岩手県）
	秋田県知事賞	絵になった私	佐藤史朗（仙台市）
	山形県知事賞	祭りの詩	松木勇紀（山形県）
	福島県知事賞	弁財天	谷藤幸治（仙台市）
	仙台市長賞	桜の花の遊び方	泉田利美子（仙台市）
	宮城県教育委員会教育長賞	Respawn	齋　秀哉（白石市）
	仙台市教育委員会教育長賞	垂線の秋	松浦昭宏（静岡県）
	宮城県議会議長賞	故郷との再会	中村咲菜（涌谷町）
	仙台市議会議長賞	いい眺め	小沼　均（仙台市）
	公益財団法人宮城県文化振興財団賞	1921年生まれ	菅原宏之（仙台市）
	大崎市長賞	伊豆沼	山本正彦（仙台市）
	東北電力賞	もうすぐクリスマス	佐藤剛太郎（仙台市）
	東北放送賞	クマさんの水遊び	笹原　弘（仙台市）
	ニコン賞	包愛包	大沼紫乃（大崎市）
	堀内カラー賞	陽ざしの中で	大場政儀（大崎市）
	tcd東北カラーデュープ賞	雪遊び	幸野収三（仙台市）

第５回　杜のみやこ工芸展　受賞者

賞	作品名	氏名
宮城県芸術協会賞	創作仙台箪笥「りんご飴」（漆）	杉山智一（大和町）
河北新報社賞	風の路（陶磁）	山口幸雄（仙台市）
公益財団法人宮城県文化振興財団賞	乾漆造「湿原の花」（漆）	坂内憲勝（福島県）
JAL賞	深緑の季（染織）	安倍由夏（白石市）
宮城県知事賞	細雪（染織）	及川曜子（東松島市）
青森県知事賞	41.1℃（漆）	田中泰雄（仙台市）
岩手県知事賞	蒼い波（陶磁）	相澤まゆみ（長野県）
秋田県知事賞	友禅訪問着春秋（染織）	小林昌夫（秋田県）
山形県知事賞	過ぎし日の絆（人形）	竹内和子（山形県）
福島県知事賞	命脈（陶磁）	遠藤幸子（福島県）
仙台市長賞	春日和（染織）	武藤洋子（仙台市）
宮城県教育委員会教育長賞	hotarui si（陶磁）	大沼明子（仙台市）
仙台市教育委員会賞	こぎん刺し「幽深」（染織）	小林寛子（仙台市）
公益財団法人仙台市市民文化事業団賞	省胎七宝器「連菱」（七宝）	佐瀬たか子（岩沼市）
東北福祉大学賞	夢幻泡影（金工）	松葉滋樹（塩釜市）
NHK仙台放送局長賞	紬着物「春嶺」（染織）	横田美和（仙台市）
東北放送賞	鳥と花と‥‥（硝子）	小山尚美（仙台市）
東北電力賞	Frost（染織）	菅原麻由（仙台市）
新人賞	白石和紙細工（紙）	三塚亜弥（福島県）

重ねた研鑽、実績に光
会員3氏に芸術選奨、新人賞

令和6年度の宮城県芸術選奨受賞者が決まった。受賞者は芸術選奨3名、同新人賞5名。当協会の会員、美術（書）の一関京子氏が選奨に、美術（日本画）の山本政彰氏と文芸（短歌）の沼沢修氏が同新人賞に輝いた。表彰式は11月29日、県庁内で実施。栄誉と重ねた地道な精進をたたえるとともに、宮城県の芸術文化の発展に寄与し、当協会の活動にも多大の貢献をされた3氏の業績と喜びの声を紹介する。

芸術選奨、一関京子氏 美術（書）

河北書道展を中心に秀作を次々発表。入選・入賞多数。同展の招待作家に昇格。3月の個展も高評で、常に次代を示唆するような意欲作を手掛け、宮城を代表する少字作家として傑出した力量を示している。72歳。仙台市出身。

見てくれる人がいるんだなと驚くやらうれしいやらですね。10歳の頃に書と出合い、20歳の頃に一生をかけると心に誓い、大学職員との二足わらじを貫いてきました。過去を引きずらず、手を抜くことなく前へ前へと努めたご褒美でしょうか。受賞を励みとし、現代書（少字・近代詩文）を究めるべく、自らを鼓舞し精進を続けていく所存です。

芸術選奨新人賞、山本政彰氏 美術（日本画）

令和元年、河北美術展に初出品し入選して以降、破竹の勢いで秀作を発表。芸術祭絵画展公募の部で入賞し、入会の翌年には芸術祭賞を受賞。河北美術展で河北賞、春の院展にも入選し、日本画の未来を担う逸材と注目される。63歳。札幌市出身。

この年齢で新人賞？　の思いもありつつ、うれしさはこの上ないものです。画家、音楽家志望でしたが、近接の建築士として就職。二十代で衝撃を受けた日本画に導かれるように定年を前に、画家に転じました。体調面に不安もありますが、画歴の若さを強みとし、今は型にはまらず、居を構えた地で自分なりの表現を磨いてまいります。

芸術選奨新人賞、沼沢修氏 文芸

令和2年、宮城県短歌賞（県歌人協会）、3年芸術祭県知事賞を受賞。5年、第二歌集「秋のひかり」は完成度が高く、歌材の切り取り、詩的な表現が秀逸。歌作や研究など県歌壇のリード役が期待される。70歳。山形県舟形町出身。

入会を推薦下さった故原田夏子さんにご恩返しできたとうれしく思います。短歌を始めたのは16歳の秋、山形県猿羽根峠の斎藤茂吉の歌碑に感動し「いつかふるさとを詠った茂吉のように歌を詠んでみたい」と思ったのがきっかけでした。初心を忘れず思いがけない「70歳の新人賞」を励みとし、今後も東北の歌を詠んでいきたいです。

地域文化功労者に高橋氏 元理事、マンドリン奏者

文化庁の令和6年度の地域文化功労者表彰の発表があり、当協会の元理事（洋楽、当時は音楽）で参事のマンドリン奏者、高橋五郎氏＝仙台市＝が表彰者に選ばれた。長年、地域文化の振興・発展に功績顕著な個人、団体を文部科学大臣が顕彰するもので、今回、宮城県関係では3個人・団体が栄誉に浴した。

高橋氏は仙台市出身。長年にわたり、マンドリン奏者として優れた活動を行うとともに、一般社団法人（一社）日本マンドリン連盟会長等を務め、地域文化の振興に多大の貢献をしている。現在もマンドリン合唱団「チルコロ・マンドリニスティコ・フローラ」を主宰、毎年、定期演奏会を開催している。当協会には昭和51年に入会、一社当時の平成10～24年まで、理事を務め、協会の発展にも尽くした。

表彰を受けて、高橋氏は「この度の受賞は寝耳に水で驚きました。芸協での関わりは自分の経験となりました。マンドリンという楽器の世界を広げていくため、今後も尽力して参りたいと思います。」と喜びを語った。

文化の日表彰に会員3氏

令和6年文化の日表彰受賞者（教育文化功労）に当協会から工芸（陶芸）の小川和子さん＝仙台市、茶道（大日本茶道学会）の相澤仙静（静子）さん＝同、文芸（川柳）の西（髙橋）恵美子さん＝白石市の3名の会員が選ばれた。

小川さんは絵画（洋画）との重籍。両部運営委員。二刀流で精力的に活動し、令和2年度芸術選奨を受けている。81歳。

相澤さんは茶道部運営委員。長年、伝統文化・茶道の普及と後進の指導、育成に努め、茶道の継承に尽力した。75歳。

西さんは協会理事。川柳作家として長年、優れた創作活動とともに後進の指導を実践、川柳界の発展に寄与した。74歳。

文芸部（短歌）を退会したばかりの岡本勝さんも選出された。

七宝の安藤さん快挙 伝統工芸展で会長賞

第71回日本伝統工芸展（日本工芸会など主催）で、七宝作家の安藤令子さん（蔵王町）＝工芸部運営委員＝が、日本工芸会会長賞を受賞した。日本最大規模の公募展として知られ、宮城県からの入賞は20年ぶりという。

応募作品のタイトルは「律」。奥行き、幅各20㌢、高さ7㌢の鉢で、「銀有線七宝」というユニークな技法が特徴。銀線を模様として生かす斬新な表現方法が高く評価された。

作品のテーマは「迷路」。使ったパーツは2千～3千。制作に3カ月を要した。芸術的センスが輝く図柄とともに、ピンセットと熟練の手業が光る。

安藤さんは入選の常連だが、入賞は25回の応募で初めてという。今回、応募総数1085点の中から入賞16点のうちの1点、それも上位の賞に選ばれた。

明年1月に仙台三越で開催される巡回展で展示される予定。

入選会員は以下の通り。

橋本昌彦（陶芸）＝参事、本間潔（木竹芸）＝運営委員、種澤有希子（七宝）＝同、鍋田尚男（ガラス）＝部長

県各流子ども舞踊大会 日ごろの成果、華やかに

第4回宮城県各流子ども舞踊大会が8月10日、仙台市福祉プラザふれあいホールで開かれた。日本舞踊協会宮城県支部主催で、当協会も共催の形で支援し、開催した。

日本舞踊の技量向上と魅力を伝え、伝統芸能の継承に役立てるのが狙いで、5歳から中学2年まで7社中18名が出演。

未就学児、小学生低学年、高学年、中学生の4部構成で実施。子どもたちは、大きな舞台に緊張しつつも、あでやかな着物姿で所作に忠実に舞い、日頃の稽古の成果を披露した。

来場者は舞踊関係者や保護者を中心に約120名。

河北の広告媒体に掲載 芸協紹介、記念イベントも

河北新報の広告媒体である河北ウイークリーせんだい9月5日号で、当協会が紹介された。創立60周年にちなみ、吉田利弘理事長のメッセージの形で協会の活動内容を説明。10月6日の記念イベントの告知も盛り込まれた。発行に関わる広告会社から持ち込まれた企画で、当協会が原稿執筆で協力した。同誌は河北新報の折り込み等を通じ県内全域に約40万部を配布。一定程度、周知に貢献した。

新賛助会員

（団体）

◇株式会社斎テント
代表取締役　齋　南　様

◇日本航空株式会社東北支社
支社長　佐野　寛人　様

◇北日本電材株式会社
代表取締役　氏家　修　様

◇株式会社深松組
代表取締役社長　深松　努　様

◇全国共済農業協同組合連合会
宮城県支部
本部長　梅澤　修一　様

新入会員

【華道部】〔小原流〕伊東深翠（規子）＝仙台市、佐藤華千（千恵）＝塩釜市、百足桃香（久美子）＝仙台市、〔草月流〕石川史紅（史子）＝仙台市、岡村霞穂（美穂子）＝山形県東根市、小山萩里（眞理子）＝仙台市【洋楽部】伊藤有里＝名取市、塚野淳一＝仙台市、千葉まりん＝仙台市【邦楽部・長唄】杵家弥登文（安齋文江）＝福島県福島市

新部長

【絵画部】中村喜吉【邦楽部】佐藤皖山【茶道部】白木岳斎

新副部長

【絵画部】土屋薫、今井宣子、坂本和之【工芸部】馬場興彦【書道部】髙野芳月【華道部】倉田豊燿【邦楽部】佐藤將山【茶道部】髙橋宗敬【写真部】佐藤崇

新運営委員

【絵画部】中島みどり【書道部】天野白扇、小元佳香、西條玉静、佐藤華炎、建部紘子【文芸部】千田基嗣【写真部】伊藤克彦、先崎康人

事務局日誌

会員の入賞・入選など

（事務局に連絡があったもの）

◇第56回日本水墨画展
▽佳作＝熊谷雪蒼

◇再興第109回院展
▽入選＝三浦長悦

◇第79回行動展
▽向井潤吉賞＝大西ちい子▽永井保賞・会友推挙＝板橋かおり▽会友推挙＝畠山明弘

◇第11回日本美術展覧会
〈第1科（日本画）〉▽入選＝奥山和子
〈第2科（洋画）〉▽入選＝堀英敏
〈第4科（工芸美術）〉▽入選＝桑原リエ

◇第77回塩竈市美術展
▽塩竈市教育委員会教育長賞＝堀英敏

受贈書

（　）は寄贈者

『歌集　青葉の闇へ』（斉藤梢）、『句集メーデー』（相原日出子）、『歌集　堅香子の花』（萩生初江）

謹弔

文芸部（短歌）　橋本　良子　殿　令和5年4月8日
茶道部（江戸千家）　宮脇　宗君　殿　令和5年7月10日
絵画部（洋画）　渡邉　昭砆　殿　3月6日
絵画部（洋画）　鎌田　宮子　殿　3月27日
洋楽部　今野　善夫　殿　8月19日
文芸部（詩）　吉田　秀三　殿　9月12日
文芸部（俳句）　佐藤　綾泉　殿　11月23日

編集後記

刷新会議が発足した。正式名称は「持続可能な協会運営のための検討会議」。いささか長めだが、芸協版のSDGsといったところか。持続だけを目指すのであれば、直ちに危うさが表面化する状況にはない。ただ、「より良い形での継承」をということなら、検討すべき項目は多く幅も広い。改革への舞台を整えることは重要だが、本気の魂を入れてこそ大きな「風呂敷」にふさわしい成果を得られよう。会員の皆さんと意思疎通を図りつつ、還暦以降の芸協第2章を方向付ける役割の重さに応える期待の膨らむ議論をぜひ。